

1 補助対象路線と補助金額(平成28年10月～平成29年9月)

対象路線	平成29年度(千円)	対象路線	平成29年度(千円)
旭・豊田線	20,291.5	さなげ・足助線	16,713
小原・豊田線	19,445.5	下山・豊田線	7,690
藤岡・豊田線(西中山経由)	7,544	藤岡・豊田線(加納経由)	5,974
高岡ふれあいバス(路線②)	7,704	計	85,362

2 評価目的

- ・「事業の実施状況の確認」、「目標達成状況」等の評価を行うことによって、より効果的、効率的に運行されることを目的とする。

3 評価の流れ

日程	平成28年6月 (愛知県バス対策協議会)	平成30年1月 (愛知県バス対策協議会)	平成31年2月(予定) (国による第三者評価委員会)
対象路線	幹線系統補助路線	幹線系統補助路線	国庫補助対象路線
実施内容	計画申請	一次評価(自己評価)	二次評価(有識者による第三者評価)

※・地域バス補助路線については、第3回豊田市公共交通会議にて評価を実施済

・豊田市内を走る、名鉄バス(株)自主路線についても愛知県バス対策協議会にて評価を実施済

4 第2回愛知県バス対策協議会(平成30年1月10日)における一次評価

●目標・効果達成状況及び今後の改善点

- ・補助対象である7路線のうち4路線については、前年度より利用者数が増加しており、7路線の合計利用者数も約4,500人増加していることから市民の移動手段として確実に定着してきている様子が窺える。
- ・沿線施設や観光イベントとの連携による利用促進を実施する。
- ・利用状況や利用者ニーズに対応したダイヤの改正や車両の大型化の検討をする。

※豊田市では、基幹バス、地域バス全路線の評価を独自で実施し、改善に繋げています。

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

[平成29年度分]

平成30年1月10日

評価対象事業名:陸上交通に係る地域公共交通確保維持改善事業(地域間幹線系統)

提出者:愛知県バス対策協議会

補助対象事業者等	事業概要	前回の事業評価結果の反映状況	事業実施の適切性	目標・効果達成状況	複数市町村を跨ぐ系統としての役割	幹線系統としての役割	事業の今後の改善点(特記事項を含む)	
豊田市	名鉄バス線 おいでんバス(旭・豊田線)	小渡～豊田市	ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。また、沿線観光地やレジャー等と連携したガイドブック等による利用促進を実施した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	A 補助対象期間における利用者数は87,577人であり、目標利用者数80,951人に比べ108.2%となり目標を達成することができた。前年度比も108.2%で増加している。朝夕の特定の便の利用が目立っており、利用者が大半を占めているが、利用者が伸びているため学生以外の利用も増えていることが窺える。	豊田市と旧旭町を跨ぐ利用者は、12% 1,110人/月にとどまっているが、市外から市街地へへの通勤・通学の手段となっており広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道 三河線、豊田線 とよたおいでんバス 稲武・足助線、旭・足助線、さなげ・足助線、藤岡・豊田線(加納経由)、保見・豊田線、藤岡・豊田線(西中山経由)、豊田・渋谷線、下山・豊田線、中心市街地玄関口バス、土橋・豊田東環状線 名鉄バス 矢並線、東山住宅線、豊田市内線(古瀬間経由)、豊田市内線、豊ヶ丘・豊田線、九久平線、豊田西市内線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 旭地域バス、小原地域バス、石野地域バス、藤岡地域バス	様々な観光施設や豊かな自然環境を有する地域を運行しており、こうした環境を生かした利用促進策を講じる必要がある。広瀬バス停での乗り継ぎを考慮したダイヤの検討、沿線やなへ行く利用者への飲み物サービス等の特典、バスを活用した沿線ガイドブックの作成を行っていく。
	名鉄バス線 おいでんバス(小原・豊田線)	上仁木～豊田市	ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。また、沿線観光地やレジャー等と連携したガイドブック等による利用促進を実施した。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	A 補助対象期間の利用者は200,850人であり、目標の191,113人に対して105.1%となり目標を達成することができた。昨年度比も103.5%と増えた。	豊田市と旧小原村を跨ぐ利用者は、13% 2,490人/月であるが、市外から市街地へへの通勤・通学の手段となっており広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道 三河線、豊田線 とよたおいでんバス 稲武・足助線、旭・豊田線、さなげ・足助線、藤岡・豊田線(加納経由)、保見・豊田線、藤岡・豊田線(西中山経由)、豊田・渋谷線、中心市街地玄関口バス、土橋・豊田東環状線 名鉄バス 矢並線、東山住宅線、豊田市内線(古瀬間経由)、豊田市内線、豊ヶ丘・豊田線、九久平線、豊田西市内線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 小原地域バス、藤岡地域バス	加茂丘高校一四期間の利用が非常に多くピーク時には50人/程度の乗車となるため、車両確保が適切に検証する必要がある。稲武駅への接続も含めて経路の検討を行っていく。小原四季桜まつりに対応した期間限定のダイヤや四郷地区区画整理に対応した経路についても検討する。
	名鉄バス線 おいでんバス(藤岡・豊田線(西中山経由))	藤岡中学校～西中山～豊田市	ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。また、交通結節点(藤岡支所)の整備、四郷地区区画整理に対応した経路検討、バス停上屋の設置について検討を行った。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B 補助対象期間の利用者は114,267人であり、目標の114,681人に対して99.6%となり、わずかに目標を達成できなかった。前年度比では101.5%で増加しているものの、平成28年度比は98.4%で、こちらも微減した。利用者は直近5年間でほぼ横ばいであり一交通手段として定着している様子が窺える。	旧豊田市と旧藤岡町との相互間の利用者は、70% 9,930人/月であり、広域的な路線として役割を果たしていると考えられる。足助病院から稲武駅間の利用が多く他路線に乗り継いでいる利用が多い。中山間地域から市街地への通勤、通学手段として利用されていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道 三河線、豊田線 とよたおいでんバス 稲武・足助線、旭・豊田線、さなげ・足助線、藤岡・豊田線(加納経由)、保見・豊田線、藤岡・豊田線(西中山経由)、豊田・渋谷線、中心市街地玄関口バス、土橋・豊田東環状線 名鉄バス 矢並線、東山住宅線、豊田市内線(古瀬間経由)、豊田市内線、豊ヶ丘・豊田線、九久平線、豊田西市内線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 藤岡地域バス	鉄道駅への接続を視野に入れた経路検討、四郷地区区画整理に対応した経路、バス停上屋の設置検討、交通結節点(藤岡支所)の整備。
	豊栄交通線 おいでんバス(さなげ・足助線)	豊田厚生病院～百年草	ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。また、車両の大型化やダイヤ改正による乗りこぼし対策の検討を行った。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B 補助対象期間における利用者数は195,670人であり、目標利用者数197,362人に比べ99.1%とわずかに目標を達成できなかった。前年度比は101.4%で増加しているものの、平成28年度比は101.5%で増加している。本路線は運行開始以来大きく増加しているが平成25年度をピークとして減少している。今後も同様の傾向が続くか注視する必要がある。	旧豊田市と旧足助町との相互間の利用者は、44% 9,780人/月であり、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。足助病院から稲武駅間の利用が多く他路線に乗り継いでいる利用が多い。中山間地域から市街地への通勤、通学手段として利用されていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道 三河線、豊田線 愛知環状鉄道 とよたおいでんバス 保見・豊田線、藤岡・豊田線(加納経由)、小原・豊田線、藤岡・豊田線(西中山経由)、旭・豊田線、稲武・足助線 名鉄バス 矢並線、岡崎・足助線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 保見地域バス、石野地域バス、足助地域バス、みよしさんさんバス	沿線の高校の生徒利用が特定の便に集中することによる乗りこぼしが発生している。このため、引き継ぎバス車両の大型化(中型バス車両導入)に向けて関係機関と調整を実施する。また、増便等も含めたダイヤ改正の必要性も検討し実施していく。また、沿線の番屋敷ややなどの観光地と連携した休日の更なる利用促進も課題である。
	豊栄交通線 おいでんバス(下山・豊田線)	大沼～豊田市	ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。また、車両の大型化の検討を行った。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B 補助対象期間における利用者数は135,019人であり、目標利用者数137,506人に比べ98.2%と目標を達成できなかった。前年度比では101.5%で増加している。本路線は運行開始以来大きく増加しているが平成25年度をピークとして減少している。今後も同様の傾向が続くか注視する必要がある。	旧豊田市と旧下山村との相互間の利用者は、40% 8,690人/月であり、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。市外から市街地への通勤、通学手段として利用されていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道 三河線、豊田線 愛知環状鉄道 とよたおいでんバス 旭・豊田線、藤岡・豊田線(加納経由)、保見・豊田線、豊田・渋谷線、小原・豊田線、藤岡・豊田線(西中山経由)土橋・豊田東環状線、稲武・足助線、下山・豊田線、中心市街地玄関口バス 名鉄バス 矢並線、東山住宅線、豊田市内線(古瀬間経由)、豊田市内線、豊ヶ丘・豊田線、九久平線、豊田西市内線、大沼線、岡崎・足助線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 下山地域バス、松平地域バス、水頭東バス	通勤・通学等の日常利用以外の観光目的での利用を促進していく必要があるため、沿線の松平郷などの観光地を活用した利用促進策を行っていく。民間路踏の廃止意向に対応した経路再編について検討を行っていく。また、車両の大型化を行う。
	豊栄交通線 おいでんバス(藤岡・豊田線(加納経由))	藤岡支所～豊田市	ICカードのODデータ取得による利用実態の把握を行った。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B 補助対象期間の利用者は98,804人であり、目標の101,048人に対して97.8%となり目標を達成することができなかった。前年度比も98.4%であり、減少した。利用者は運行開始以来増加傾向が続いていたが、近年は、横ばいとなっている。	旧豊田市と旧藤岡町との相互間の利用者は、41% 4,230人/月であり、広域的な路線としての役割を果たしていると考えられる。市外から市街地への通勤、通学手段として利用されていると考えられる。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道 三河線、豊田線 愛知環状鉄道 とよたおいでんバス 小原・豊田線、藤岡・豊田線(西中山経由)、さなげ・足助線、保見・豊田線、旭・豊田線、豊田・渋谷線、下山・豊田線、中心市街地玄関口バス、土橋・豊田東環状線、稲武・足助線 名鉄バス 矢並線、東山住宅線、豊田市内線(古瀬間経由)、豊田市内線、豊田西市内線、豊ヶ丘・豊田線、九久平線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 藤岡地域バス	利用者が減少に転じている状況を踏まえ、地域医療センターなどの沿線施設と連携した利用促進策を実施する。ふかみ台団地バス停の乗りこぼし対策の検討を行う。バスを活用したウォーキングマップを作成する。
	名鉄バス交通線 高岡ふれあいバス(路線②)	知立駅～上丘町	休日ダイヤの平日化、朝夕の通勤時間帯の増便の検討を行い、H29.4.1より平日、夕方の1便増、休日朝・夕の3便増を行った。また、前林地区全世帯アンケートを実施する予定とした。	A 補助対象期間の開始日から、運休や大規模な遅延もなく、所定の事業計画通りの運行が実施されている。	B 補助対象期間の利用者は124,746人であり、目標の133,205人に対して93.6%となり目標を達成することができなかった。前年度比でも93.5%で減少した。本年度は減少したが、平日は通勤通学、休日は観光等での利用が多く、地域の移動手段として着実に定着している。	豊田市と知立市との相互間の利用者は、94% 9,630人/月であり、広域的な利用がされている路線である。これらの利用者は、通勤、通学、買い物等の利用が多く生活に欠かせない市民の足となっている。	＜広域的・幹線の系統＞ 名古屋鉄道名古屋本線、三河線 ＜地域的・フィーダー的系統＞ 高岡ふれあいバス(路線①)、知立市ミニバス	利用者アンケートを踏まえて、主に次の点を検討していく。 ・路線の土橋駅への延伸及びそれに伴う経路見直し ・バス停の見直し(統合、名称変更、新設) ・近隣コミュニティバスとの効果的な連携